

【特色ある取組】

1992年から、医療従事者を目指す学生にとって“生と死”について考えるきっかけになればと、生と死や生命倫理、終末期医療等に関する資料を集め、現在までに約2,800点の図書や雑誌、AV等の資料を所蔵している。また、2002年からは地域の医療関係者や一般市民の方々を対象に含めた、地域貢献事業としても毎年1回、生と死のコーナーに関連した講演会やイベント等を企画・開催している。

毎年この講演会には学内外から150～200名の来場者がある。

○授業での主な活用例

☞授業科目名「健康危機への看護実践」（看護学科4年）

授業科目名「医工農総合特論」（医工農学総合教育部 修士課程）

上記講義の1コマ

生と死のコーナーに関連した講演会は、臨地実習を終え、数か月後には看護師となる看護学科4年の学生や大学院修士課程の学生が受講し、「医療者として今後働く立場となるため、死について深く考える必要があると思った」「実習では緩和ケアや最期を迎える方に実際に関わる場面がなかったので、現場で活躍する先生から現場の実際を聞いたことは貴重な体験となった」といった感想が寄せられるなど、有意義な講演会となっている。

☞授業科目名「成人看護活動論3」（看護学科3年）

上記講義の1コマ

「ターミナルケア 在宅での看取り」の講義では、生と死のコーナーの資料を事前学習、またレポート作成の参考資料としている。

☞医学科・看護学科 臨床実習、院外施設実習等での事前、事後学習に活用



【コーナー設置の経緯】

今から30年ほど前の1992年、医学科のある教員から、

「学生は卒業後、医師等の医療従事者として、病気と闘い、時には苦悩する患者さんと向き合わなくてはならない。患者さんの死に直面することもある。学生時代に“生と死”について考える機会として、図書館で生命倫理、終末期医療、闘病記等の図書を提供してほしい」

との提言があり、その先生の蔵書の寄贈を元に、棚一つから生と死のコーナーは始まった。

現在は、約2,800点の図書、雑誌、AV等の資料を所蔵するに至る。



【取材対応者（予定）】

- 喜多村和郎 医学分館長（医学部生理学講座 神経生理学教室 教授）
平成28年4月から附属図書館医学分館長
- 飯嶋哲也 病院教授（医学部麻醉科学講座（緩和ケア医））
生と死のコーナーの講演会の講師の選定、選書に助言をいただいている。
- 伊藤愛菜さん（医学部看護学科卒業）
令和3年3月、山梨大学医学部看護学科を卒業、4月から附属病院看護師として従事、在学4年時に生と死の講演会を受講

⇒ 参考URL ◆山梨大学附属図書館医学分館「生と死のコーナー」

<https://lib.yamanashi.ac.jp/igaku/seitosi/seitositop.html>